



みやぎ

- 29号 -

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院
 発行責任者 清野 仁
 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100番地
 TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316
 ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>

●●基本理念●●

良い医療を安全に、心を込めて

宮 城 病 院 の こ れ か ら



副院長 久永欣哉

大震災から4ヶ月が過ぎ、宮城病院は表面的にはおおむね復旧を果たした感がある。少なくとも建物や設備などは従前通り使用できるようになった。これまで多くの医療スタッフの支援を外部から受けてきたが、5月に山元町への医療チームの支援が終了し（国立病院機構の19病院、国立がんセンター、自衛隊医療班、メンタルケア・歯科のチームなど）、7月で当院への看護師の支援（国立病院機構の29病院、計90名）も終了となった。震災後、今日まで宮城病院を維持できたのはこうした皆様の御支援のおかげであり、この場をお借りして深謝申し上げたい。

一方、近隣の被災地は復旧・復興には程遠い状況が続いている。当院でもハード面の復旧はともかく、被災した職員は勿論のこと、被災を免れた職員の心の傷も容易に癒されるものではない。お子様たちとともに若くして津波の犠牲になってしまった職員の被災時の心情に思いをはせることもしばしばである。

そうとはいえ、いつまでもこのムードに沈んでいるわけにもいかず、今生きている人達の未来のためには心の整理を無理矢理につけてでも前に踏み出していかなければならないのも確かである。宮城病院も新しいプランを打ち出しながら、少しずつでも活気を高めて、この苦難を乗り越えていきたいと願うばかりである。

当院は震災直前に新中央病棟が完成し、震度6の地震で倒壊の危険があった古い4階建ての病棟は震災の1週間前に解体撤去が終了して難を免れた（山元町は震度6強）。やはりプランの第一はひびが入ったいわゆる外来・管理棟の建て替えである。新しい建物の機能や設備を考えるにあたっては、時期を同じくして進行するであろう山元町・亶理町の地域医療・福祉の復興プランも念頭に置き、また仙台や福島沿岸部との交通アクセスの復興の問題にも関心を払いながら広域をカバーしうる当院独自の医療の構想も立て、転んでもただでは起きないという気概をもってプランを練っていききたいところである。これから国や自治体の財政難が長く続くであろう困難な状況の中で、また沿岸部の多くの病院が損壊や原発事故の影響で入院を制限しなければならない状況のなかで、当院には南病棟も含めた344床分の新しい病棟が既に備わっているわけであり、これは患者さんのためにこれから大いに生かしていかなければならない貴重な医療資源である。従って、病棟を十分に稼働させて入院医療を充実させていくことが当院の使命であろう。そのためには近隣のクリニックの先生方と特に外来診療についての役割分担を改めて相談していくことも重要なことと思われる。地域医療連携室での業務などを通して当院に求められている医療のニーズを改めて把握し、患者さんの入院前から退院後までのトータルケアのシステムを多職種チームで知恵を出し合って再構築していく必要もある。新しい外来・管理棟もこれからのニーズに十分に応えていけるものでなくてはならない。

なでしこジャパンの快挙に勇気づけられながら、当院にも粘り強い女性職員が多数勤務していることを心強く感じながら、震災時にみられた当院の底力を思い起こしながら、「宮城病院のこれから」を皆で楽しみながら構想していきたいものである。

インドネシアからの看護師候補者

震災を乗り越え元気になっています

昨年1月から宮城病院で勤務しているインドネシアからの看護師候補者のリタさんとヤントリさんは、3月11日（金）の震災後一週間にわたり他の職員と一緒に病棟業務に当たっていましたが、インドネシア大使館からの帰国要請を受けて3月18日（金）に宮城病院を離れ、約2ヶ月間インドネシアに一時帰国しておりました。5月11日（水）に宮城病院に戻り、その際にはインドネシアの日本語学校に通う生徒たちからの励ましのメッセージを多数持参してくれ、海外の人たちの暖かさにふれることができました。インドネシアに帰国している際、リタさんはマスコミに取り上げられ、震災の中献身的に勤務をつづけたことに対し、多くのインドネシア国民から称賛された、と聞いています。この報道のこともあり、6月18日（土）に来日したインドネシアのユドヨノ大統領ご夫妻が東日本大震災で津波の被害が大きかった宮城県気仙沼市を訪れることが決定した際、インドネシア駐日大使よりご招待を受け、懇談することとなりました。

当日は、気仙沼市内のホテルにおいて、宮城病院のほか3施設の看護師候補者など10名が約30分間にわたり大統領ご夫妻ご一行と懇談し、ユドヨノ大統領から励ましの言葉を頂戴いたしました。また、ア二大統領夫人は直接リタさんにお声をかけられて、震災当時の様子や試験勉強の進み具合を聞いておりました。懇談後、大統領ご夫妻から候補者への記念品贈呈があり、リタさんが代表としてア二大統領夫人から品物を受け取り、ユドヨノ大統領とも握手を交わしました。



リタさんとヤントリさんは、大統領ご夫妻との懇談はもとより、各施設の候補者との再会やインドネシア大使館からの差入れ（バナナの包み焼きみたいなお菓子、インドネシアのチョコキャンディなど）もあり、楽しい1日を過ごすことが出来たと大変喜んでおりました。

現在は、これまで通り働きながら、来春の国家試験受験に向けて学習したり、仙台市内の日本語教室に元気よく通っています。当院としても教育担当師長のほか看護部や関係部門が連携して引き続き支援しています。

（副看護部長 大竹 恵美子）

大統領夫人から記念品を受取るリタさん

大統領ご夫妻と記念撮影





療育指導室は、肢体不自由と知的障害を併せもつ方々（重症心身障害児（者））の皆様のために療育や福祉などについての様々な支援や相談業務などを行っている部門です。職種は、児童指導員と保育士で構成されていて、具体的な業務としては、市町村、福祉事務所、児童相談所など関係機関との連絡、調整業務やボランティアの受け入れ調整なども担当しております。更に入院生活を楽しく、充実して送れるように年間行事を計画しています。小児科の先生方や看護、栄養部門などと連携してお楽しみ会や社会見学などを企画したり、日々の活動では個別活動の援助やミュージックケア、リラクゼーションや発達を促すことなどを目的としたスヌーズレンやムーブメントなども取り入れ活動を行っています。また、県立山元支援学校における就学の支援活動もあわせて行っています。



（療育指導室長 神藤 正）

紹介医療機関 （6月末日現在）ご紹介ありがとうございます。

- ・ 公立相馬総合病院（22件）
- ・ 相馬中央病院（17件）
- ・ 平田外科医院（15件）
- ・ 松村クリニック（15件）
- ・ 南東北病院（11件）
- ・ 仙台厚生病院（10件）
- ・ 宮城県立がんセンター（10件）
- ・ やべ内科クリニック（10件）
- ・ ふなばし内科クリニック（9件）
- ・ 金上病院（9件）

上位10医療機関のほか、県内外80医療機関からご紹介いただいております。

診療案内

平成23年7月1日現在

診療科別		月	火	水	木	金
内科		清野 仁	清野 仁		清野 仁	清野 仁
		志澤 聡一郎			志澤 聡一郎	
			米地 稔	米地 稔	米地 稔	米地 稔
				阿部 広幸		仙台医療センター医師
神経内科	新患	伊藤 博明	久永 欣哉	久永 欣哉	大隅 悦子	松本 有史
	再来	今井 尚志	今井 尚志	松本 有史	久永 欣哉	
		平岡 宏太良 (高次脳機能障害)	伊藤 博明		伊藤 博明	
呼吸器科			芦野 有悟			
消化器科				県立がんセンター (13:30~15:30)		
循環器科		星 信夫	星 信夫	星 信夫	星 信夫	星 信夫
アレルギー科		堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
小児科	午前	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
	午後		小児アレルギー (堀川 雅浩)	(第1・3)乳児健診	療育相談 (大島 武子)	
整形外科						県立がんセンター (13:30~15:30)
形成外科						澤村 武 庄司 未樹 隔週交代 (13:30~15:30)
脳神経外科		永松 謙一	安藤 肇史	仁村 太郎	手術日	安藤 肇史
皮膚科					東北大(第4木)	
リハビリテーション科	新患				大隅 悦子 (14:00~15:00)	
	再来	齋藤 佐	齋藤 佐	齋藤 佐	齋藤 佐	齋藤 佐
放射線科(画像診断)				齋藤 美穂子		
歯科		中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来	伊藤 博明	久永 欣哉	久永 欣哉	大隅 悦子	松本 有史
	ALS外来			今井 尚志	今井 尚志	
	もの忘れ外来	平岡 宏太良				
	漢方外来	志澤 聡一郎			志澤 聡一郎	
	頭痛外来	伊藤 博明	久永 欣哉	久永 欣哉	大隅 悦子	松本 有史

受診される方へ

受付時間は8:30~11:00です。

土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、救急の方は随時受け付けいたします。

お問い合わせ先 0223-37-1131

初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に**2,625円を負担**していただくこととなりますので予めご了承ください。

交通のご案内

自動車でおいでの方

仙台方面から

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

相馬方面から

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

交通機関をご利用の方

仙台方面から

JR常磐線亶理駅下車、タクシーまたはJR代行バス(詳しくはお問い合わせください。)

